1 自己評価書

教育目標	自立と共生の力を持つ生徒の育成
基本方針	1 保護者や地域社会と連携した生徒指導に努めると共に、時代の変化に対応できる確かな学力と豊かな感性を持ち、他者を尊重することのできる生徒の育成に努める。 2 自主・自律の精神に富み、活気ある本校教育の伝統を継承し、主体的な教育活動の展開により、自信と誇りを持ち、可能性に挑戦する生徒の育成に努める。 3 地域と教育理念を共有し、12小学校区の人、こと、もの、情報を効果的に繋げ、地域と共にある学校を実現することで、郷土愛を持ち社会のために貢献できる生徒の育成に努める。
本年度重点目標	1 生徒会活動の活性化と生徒指導の充実 2 生きる力を育む学校の推進(知・徳・体の充実) 3 安全・安心な学校の推進 4 家庭・地域から信頼され誇りとされる学校の推進 5 働き方改革の推進

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	後期	前期	
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	A	A	後期のみのみ
			・具体的な対策の実施	A		
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	A	A	A
			・保護者アンケート	B		B
			・児童生徒アンケート	A		A
			・教師アンケート	A		A
			・保護者アンケート	A		A
			・児童生徒アンケート	A		A
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	A	A	B
			・保護者アンケート	B		B
			・児童生徒アンケート	A		A
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	B	A	B
			・保護者アンケート	A		B
			・児童生徒アンケート	A		A
	⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	A	A	A
・保護者アンケート			A	A		
・児童生徒アンケート			A	A		
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修主任のリーダーシップの下各学年ごとに熱心に研修が進められ生徒の学力向上と教師の指導力向上につながった。 ・基礎、基本の定着のため、ドリルを継続するよう意識したことで、少しずつ成果が上がっている。 ・研究発表に向けて様々な取組を積み重ねてきたことで、話し合い活動の質が高まり、深い学びにつながったと思う。 ・保護者との連絡や懇談を重ねたことで、進路に向けた意識が高まり、予習や復習にしっかりと取り組む生徒が増えた。 ・学級全体の授業への意識の高まりとともに意識レベルの二極化が進んでいる。しっかりと底上げしたい。 ・昨年度までと違って短縮授業が少ないため、しっかりと授業を組み立てられるので、緻密な授業計画により内容の充実につながった。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを丁寧に行い、生徒たちが授業の中で身に付けたことや気が付いたことを自覚させる。 ・小テストを単元テストに、単元テストを期末テストにつなげられるよう、一つ一つのテストへの取り組み方を指導する。 ・宿題の量や難易度を一律にする日ばかりではなく、生徒の習熟度に応じて個別の宿題を出して意欲を高める。 ・ねらいの提示と振り返り活動によって、生徒が見通しをもって授業に取り組むことを徹底させる。 						

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	後期	前期	
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A	B
			・保護者アンケート	A		A
			・児童生徒アンケート	A		A
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	B	B	A
			・保護者アンケート	B		A
			・児童生徒アンケート	B		A
			・教師アンケート	A		A
			・児童生徒アンケート	A		A
			・保護者アンケート	B		B
	③ 関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、子ども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	A	A	A
			・児童生徒アンケート	A		A
			・保護者アンケート	A		A
	④ 自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的に行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	A	A	A
			・児童アンケート	A		A
			・教師アンケート	B		B
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律を徹底することで、授業に集中できるようになってきた。 ・スクールガードリーダーの本校における積極的な活用を推進していきたい。 ・規範意識が低い生徒と高い生徒に差がある。 ・学校の考えや思いがなかなか伝わらないと、生徒の意識や行動が改善しにくい。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は言えませんが改善するものではないので、指導方法や伝え方を変えながら粘り強く指導を続ける。 ・不登校生徒や指導が入りにくい生徒への対応を、学担任せにせず学年部全体で行う。 ・生徒指導と相談してスクールガードリーダーの活動について検討する。 ・規範意識を高めるために、小さなことや簡単にできることを生徒に徹底させ、ルールを守る意識の定着と実践を重ねる。 						

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	後期		前期	
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A	B	B	B
	② 働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	B	B	B	B
		休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B	B	B
③ 他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	B	B	B	B	

(成果と課題)

- ・時間割の確認、各種調査・提出文書等の事務処理が多く、やや負担に感じるがあった。
- ・各学年に支援員を配置することで、業務の依頼が円滑になり、教職員の負担軽減につながる。
- ・特別支援パッケージや通信簿の所見の記入回数が減って、事務作業が軽減された。
- ・学校行事、部活動、寮直、各種調査や事務処理など、見直してきるところから一つずつ改善していきたい。

(改善策等)

- ・事務作業の効率化を図るとともに、作業する時間の確保をさらに進めたい。
- ・支援員の業務の制限内であれば、各学年に配置することも含めてお互いに働きやすい体制を検討したい。
- ・LITALICO教育ソフトの導入など、市教委とも連携して働き方改革を進めたい。
- ・来年度に向けて、バスのダイヤとの兼ね合いも考えながら、下校時刻の変更を検討する。
- ・コロナ禍の影響で進んだ学校行事の精選や内容のスリム化をさらに進めていく。

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	後期		前期	
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	B	B	B	B
		学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B		B	
			・保護者アンケート	B		B	
② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A	A	A	
・保護者アンケート		A	A				
・地域アンケート		A	後期のみ				
③ 来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	A	A	
		・保護者アンケート	A		A		
		・地域アンケート	A		後期のみ		

(成果と課題)

- ・校区内に商業施設やイベント会場、人が集まる場所が多く、学校への様々な依頼が入るが、全てに対応はできない。
- ・休日のボランティア活動を引き受けすぎているか心配している。
- ・生徒たちは校外でのボランティアにも積極的に参加し、現場でも意欲的に活動することができている。
- ・部活動については地域の人材確保が課題の一つだが、時間、労力、意欲を兼ね備えた人材となるとなかなか難しい。
- ・寮直に入ると30時間以上の連続勤務になり負担が大きい。少なくとも寮直に入る頻度を今の半分程度に減らしてほしい。

(改善策等)

- ・ボランティアへの参加は原則自主参加だが、担当する教員はそうではないので、仕事を分担する体制を整える。
- ・学校運営協議会のメンバーの皆さんは地域の顔なので、協力していただけることがあればお願いしたい。
- ・部活動指導の人材確保については、手当てやバックアップ体制など、指導者が継続して活動しやすい支援の在り方を確立することが必要。
- ・寮は県内でも5校しかなくそのうち4校で教員が舎監を務めている。教育委員会と粘り強く話し合って負担軽減を図りたい。

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満